

子どもたちが夢に挑戦できる町を

私は、専門学校卒業後、桑折町の養護老人ホームに勤務していました。隣町ということもあり、利用者の方の買い物や、公立藤田総合病院への通院のお手伝いなどで、国見町が親しみある町となりました。その後、軟式野球チームのマネージャーとなり、縁あって嫁いで今年で19年目になります。

ただいています。コミュニティ・スクール委員は、仕事をしながらの役割ということもあり、会議や委員会を休むことは多いです。しかし、委員会を通して各学校の取り組みがわかり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていく姿が見て取れ、とてもいい経験をさせていただいています。

現在の私は、養護老人ホームを退職し、福島市の製造会社に勤めています。子どもは3人。大学、高校、中学にいます。県北中学校では、PTA会長。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校の一貫教育に取り組むコミュニティ・スクール委員を務めさせてい

県北中学校では、保護者として7年間関わっています。が、本当に素晴らしい学校です。子どもたちは真面目で素直で何事にも熱心に取り組んでいます。部活動では、男子バレーボール部の東北大会出場、吹奏楽部の県大会出場など、素晴らしい成績を取っています。町からも部活動に対して、最大限の支援をしていただき、大変感謝しています。

国見町は、夢や希望に挑戦できる子どもたちが育つ町。高齢者が安心して生活できる町。住みやすい町であって欲しいです。



古山 恵さん  
(貝田町内会)

小中学校の入学式に参列

4月6日に、国見小学校・県北中学校の入学式に参列しました。新しい学校生活が始まる児童生徒の門出を祝福しました。



2月25日午前0時、国見町は、交通事故死者ゼロ5000日を達成しました。5000日を歳月に換算すると約13年8か月になります。オギャーと生まれた赤ちゃんが、中学1年生になるまで、国見町は交通事故死者ゼロ！すごい記録を作りました。

大震災以降、国道4号の往來は、発生以前に比べ被災地への物資の輸送が増えたこともあり、1日の交通量は2万台を超えているそうです。そのような交通事情の中での達成は、関係各位の皆様の地道な交通安全活動のたまものと思えます。

私たち一人一人が交通ルールを守り、高齢者や子どもたちに優しい安全な町をつくっていききたいものです。

(松浦 和子)

発行責任者

議長 東海林一樹

広報常任委員会

委員長 松浦 和子

副委員長 村上 正勝

委員 東海林一樹

委員 八島 博正

委員 佐藤 定男

委員 井砂 善榮

